

はじめに

各学校におかれましては、昨年度来、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中で、学習指導や生活指導、学校行事など、日々の教育活動に試行錯誤と工夫を重ねておられることと思います。加えて、新しい学習指導要領の実施、教育のデジタル化など、喫緊の課題に対応しながら、子どもたちの成長を支えておられることに、心から敬意を表します。

新しい学習指導要領は、中学校では令和3年度から、また、小学校では昨年度から既に全面実施されているほか、高等学校では来年度から年次進行で実施されます。各学校には、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育むこと、そして、そのために、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点から学習過程を改善することが求められています。

そのような中、総合教育センターでは、今年度の研究主題を「未来を創造する力を育む学校教育への総合的な支援」とし、子どもたちの成長を日々支えておられる愛媛の教職員の皆様のお役に立てるよう、研究に取り組んでまいりました。今年度の調査・研究発表会（令和4年2月10日実施）においては、その成果を発表するとともに、鳴門教育大学大学院の藤村裕一教授から、「GIGAスクール時代の教育改革」と題した講演をしていただきました。講演を通して、教員がこれまでの学力観・授業観を転換することや、子どもたちにアクティブ・ラーナーとしての学び方を身に付けさせることなど、新しい時代における教育の方向性について学ぶことができました。

総合教育センター所員は、そうした新しい時代に求められる教育課題に対応できるよう、今後とも、学校現場の立場に立って、愛媛の子どもたちの「未来を創造する力」を育む教職員の皆様を支えてまいりたいと思っております。

このたび『教育研究紀要(第88集)』を刊行し、センター所員による研究成果と、1年間の長期研修に取り組まれたお二人の先生の研究成果を、発表させていただき運びとなりました。本書が、各学校における教育活動の充実に結びつくものとなることを期待します。

最後に、研究協力学校の皆様をはじめ、調査・研究を進めるに当たり、多大な御支援と御尽力をいただきました全ての皆様に、厚くお礼を申し上げます。

令和4年3月

愛媛県総合教育センター所長 沖田 浩史